

ちょぼら

みんなで楽しく気軽にちよっとずつのボランティア

vol.40

URL <http://www.tachi-shakyo.or.jp>



夜須高原でキャンプ



01-“やる気”を応援!

本郷アンビシャス広場のボランティア
本郷アンビシャス広場では、地域のボランティアが「自発的な行動ができる子どもに」との思いを込めて子どもたちの活動をサポートしています。

02-特集 自分にイイこといっぱい! ボランティアの魅力はコレだ

03-トピックス

- ・ナレーションサークル風が朗読
「ともにわかりあえる心 ~障害者差別解消法~」
- ・サマースクールボランティア

04-ボランティア体験記 被災地支援



365日をこころ豊かに！ いきいき暮らすための ボランティアの話

日時：平成28年7月30日（土）
場所：ドリームセンター 展示ホール
参加者・121名

講師：西九州大学健康福祉学部
社会福祉学科長 滝口 真 氏



「ボランティアのイメージ」と聞くと、「人のための活動」「無償の奉仕」・・・そんな声が聞こえてきそうです。今回のボランティア入門講座では、講師の滝口先生が経験されたさまざまな事例が紹介され、「健康」や「生きる力」「心の豊かさ」などボランティアや地域活動がその人自身にもたらすたくさんの良さに気づく機会となりました。



ボランティアは人生を豊かにする

東本郷 花等 長一郎

会計事務所に勤務して約30年、サラリーマンとしての生活にどっぷりと浸かった人生を過ごしてきた69歳の人間には、老齢期を考えるのによい機会だと思い、ボランティア入門講座に参加しました。

ボランティアとは、自分の余暇人生の一部を地域社会のために、無償で奉仕することであると考えて実践してきました。しかし、滝口先生は、「ボランティアとは、自分の人生をいかに生き生きと暮らしていくのかという、自分のための生き方である。」と言われました。ボランティ

アは、自分の人生を豊かにするものであると話されたのです。

趣味も多くなく、休日はゴロゴロしている私には、社会的接触をいか

に図っていくかがボランティア活動のポイントであると感じました。いかに自分の趣味を通して、多くの人々と仲良く繋がっていただけるのが、私の人生の課題となりそうです。

今一度、老齢期の社会参加をいかに構築すべきかを考えてみたいと思いました。また、公演に誘ってくれた女房に感謝。

参加者アンケート「Q.本講座で心に残ったこと」より回答の多かったものをご紹介します。

- ・ボランティアはひとの為ではなく自分の為
- ・多趣味は老後を自ら明るくする
- ・人から頼りにされる、それが自分の生きる力になる
- ・人生80年=70万時間、基礎生活（睡眠・食事等）30万時間、仕事10万時間、余暇生活=30万時間
- ・人生の余暇時間を大切にしたい

町内で行われているさまざまな事業やイベントにボランティアが参加、取り組みを支えています。

ナレーションサークル風が朗読

ともにわかりあえる心

～障害者差別解消法～

8月7日（日）ナレーションサークル風が大刀洗町人権・同和教育推進協議会から依頼を受け人権朗読会を行いました。わかりやすい障害者差別解消法と、町内の施設で暮らす障がいを持つ方のエッセイなどを朗読しました。

人権朗読会で思ったこと

稲数 中村 照子

初めて朗読会に行きました。障害者差別解消法については何も解らない私でしたが、今日の朗読を聞いて理解できたような気がしました。

意思疎通の難しさ、情報を発している人の気持ちを察し、受ける人の「聞く耳」や「見る目」も非常に大切だと思います。伝えようとする労力が人一倍かかる人には、周りの私達がその人と同じように時間と労力をかけ理解すること、そして、ゆとりを持ち接することが大切ではないだろうかと思いました。

私自身障がい者に対して少しは理解していたつもりでしたが、まだまだ何もできていない自分が情けなく思われます。お互いを認め合い助け合いながら「ひとり」の存在の重みをともに知り、生きる尊さを学びながら・・・いっしょに楽しく暮らせるように・・・そんな世の中になってほしいと思います。



ボランティアが支える

サマースクール (8/6・23)

障がい児の長期休暇中の居場所づくりと保護者の一時的な休息等を目的に大刀洗町地域自立支援協議会が初めて実施しました。ボランティアが参加することで子どもたちが地域の人とつながり、成長を促す機会となりました。

ボランティアに参加して

東本郷 廣木 俊二

大刀洗町で初めてサマースクールが企画されボランティアとして参加しました。どんな子どもたちに会えるのかと最初は不安でした。やって来たのは小学生から20歳代の障がいのある子どもたちで、私が一緒に遊ぶのは10代の女の子。早速声をかけたのですが、その時は返事をしてもらえませんでした。

午前中は、鬼ごっこやゲーム、音楽に合わせてリズム運動に参加、声を出して活発に動きまわりました。午後はスタッフ手作りの走り高跳ゲームで、元気よく飛び跳ねている子どももいましたが、私の担当した女の子はなかなか跳べません。二度目も無理かと思ったらスタッフの手助けで成功、その途端にっこり笑ってハイタッチ。その時の笑顔がとても素敵でした。

私にとってあつという間の一日で、あまり役に立たなかったと思いますが、子どもたちの楽しそうな表情が忘れられません。次の機会も参加したいと思います。





自分の目で見てきたこと (益城町)

本郷地域づくり委員会 白水 國光

地震発生後、連日の現地報道を目にして自身の無力さを感じつつ、お手伝いできる事はないか色々考えておりましたが、ある夜のラジオ番組で軽トラ隊ボランティアの募集を聞き、「本郷地域づくり委員会」として2名で参加しました。6月8日、朝8時前に益城町に到着、駐車場で目にしたものは岐阜や大阪などの他県ナンバーの車でした。聞くと、2週間程車中泊でボランティア活動をしているとの事、頭の下がる思いでした。依頼された被災者宅では、雨に濡れた畳や家財、壊れかかったブロック塀の片づけをしました。その日は、がれきの集積場まで2往復、被災者の方とのお話では、「もうこの家には住めないで壊します」という事でした。集積場へ行く道々、家の倒壊や橋の崩落等、言葉に出来ない光景が広がっていました。そんな中ある理髪店の入り口に「陽はまた昇る」と書いたものを見つけ、被災者の皆さんの復興しようという強い力を見た思いでした。

被災現場を自分の目で確認できたこと、被災者の方と話げできたことが良かったと思います。

また時間をとって参加したいと思っています。



まだまだ人の手・支援が必要 (西原村)

富多 木村 次男

メディアで報道されている熊本地震。自分の目で確かめようと5月27日熊本市内から西原村へ。受付時間より遅くなったので、村の中をひと回りして帰ることにしました。ブルーシートが覆っている家、完全に潰れている家、立入禁止の張り紙のある家など、ひどい惨状でした。

6月8日も西原村へ。向かった先は製材所でした。見た目は大丈夫そうでしたが、地面は盛り上がり、き裂が走り段差ができていた。作業は中から板や角材を運び出す事でした。暑いうえにホコリ、ノコクズが舞い、みんな汗とホコリで真っ黒でした。

これからが更に人手の支援が必要になってきます。支援に行こうと思われる方は、被災地の募集要項を調べて行かれたらと思います。

私達もまた行ってみよう検討中です。



被災地支援のこれから

発災から4か月余りが過ぎ、被災者の生活の場が避難所から仮設住宅へと移行しつつある中、買い物や孤立化防止の見守りなどの日常生活支援が求められる地域と、一方で、復旧にかかる支援が必要な地域も依然多くあり、被災者のニーズに寄り添う息の長い活動が求められます。今後現地に行く方は、熊本県社会福祉協議会をはじめとする各地の情報を見て計画してください。また、直接被災地に行けなくても、寄付や被災地の物を買うことなども支援になります。

スマイル



代表 福村 宮生
福村 千代美
田島 孝三
宮崎 誠

編集スタッフ募集中!